

350余年を経て蘇ったロンドン市民の享楽の場

グローブ座を征く



The Merry Wives of Windsor at Shakespeare's Globe (2008)
John Trammer

●征くシリーズ●取材・執筆・写真／本誌編集部

には、これらロンドンの全劇場の収容総客数も一万人を上回るほど、演劇は人気を博した。当時はテムズ河を渡るには、ボートを使うか徒歩でロンドン橋を渡るかしかなかったが、グローブ座やロース座など人気の劇場には観客がこぞって集まったという。

シェイクスピアの絵舞台、グローブ

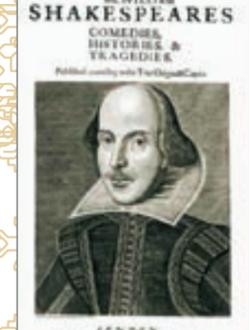


エリザベス朝時代の劇場の様子

の息子であり、座付き俳優であったリチャードとカスパーは、見込みの薄い俳優の契約更新を訴えつつ、カーテン座を暫定的に公演するなどしてしばらく凌いでいたが、九八年の暮れに強硬手段に出る。地主が田舎の邸宅でクリスマスを祝い、年明けにロンドンに戻ってくるというのだ。十二月二十八日に、パーベツ兄弟が名大工のピーター・ストリートを雇い、劇団員や友人たちと共にシアター座を完全に解体したからである。

当時、演劇活動は貴族以上の階級のバトロンがついていなければ許可されず、パーベツの劇団もチェンバレン卿の庇護を受ける「宮内大臣一座」のLord Chamberlains Men(一六〇三年にKing's Men)と改称)と名乗っていた。シェイクスピアが座付き俳優兼劇作家として二十余年にわたり在籍することになるのがこの一座で、クリストファー・マーロー(一五六四―一九三年)の作品を上演する「海軍大臣一座」the Lord Admirals' Menも、「二大一座」として名を馳せた。

宮内大臣一座が結成当初から公演を行っていたシアター座は、敷地こそ地主から借用していたが、劇場そのものの所有権はパーベツ家にあった。にもかかわらず、一五九六年末、借地契約が満期に近づくと、地主は契約更新を拒否し、その後の劇場所有権は地主に帰すると言いついたため、地主と劇団の間に激しい争いが起きた。一座の大黒柱であったジェームズが老いて他界し、その二ヵ月後には借地契約も切れ、一座はついに別の場所での公演を強いられることになる。ジェームズ



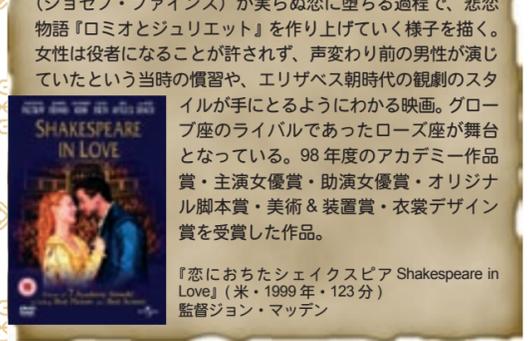
最初の全集ファースト・フォリオ(1623年)に掲載されたシェイクスピアの肖像画

判訴え、ジバ、直ちを折られ、座の成功



に地主もやむなく屈し、一六〇二年には法廷闘争も幕を閉じた。グローブ座設立とともにサザークに引越したシェイクスピアは、多くの戯曲を執筆すると同時に、『ハムレット』や『お気に召すまま』、『ヘンリー五世』などでは俳優としても出演した。当時の座付き俳優や座付き作家は劇団の株主を兼ねる場合がほとんどで、シェイクスピアもパーベツ兄弟とともに劇団の経営に従事していた。

『恋におちたシェイクスピア Shakespeare in Love』
グウィネス・パルトローとジョセフ・ファインズ主演により、シェイクスピアの秘められた恋物語を劇中劇と絡めて織り成した一大ラブ・ストーリー。創作意欲がわかず大スランプに陥っていたシェイクスピア(ジョセフ・ファインズ)が突如恋に墮ちる過程で、悲恋物語『ロミオとジュリエット』を作り上げていく様子を描く。女性は役者になることが許されず、声変わり前の男性が演じていたという当時の慣習や、エリザベス朝時代の観劇のスタイルが手にとるようにわかる映画。グローブ座のライバルであったロース座が舞台となっている。98年度のアカデミー作品賞・主演女優賞・助演女優賞・オリジナル脚本賞・美術・装置賞・衣裳デザイン賞を受賞した作品。



『恋におちたシェイクスピア Shakespeare in Love』(米・1999年・123分) 監督ジョン・マッデン

彼らは、梁や柱など使われていた木材の一片を残らず持ち去り、テムズ河沿いの倉庫へと収納し、冬が過ぎるのを待った。そして、春が訪れると同時に、いっさいの資材をボートで川向こうへ渡し、ライバル一座のロース座から目と鼻の先に、新しい劇場を建てたのである。こうして一五九九年春、「グローブ座 The Globe」はオープンした。

当時の劇場の多くがそうであったように、グローブ座も「amphitheatre(円形野外劇場)」という形体をとっていた。三階建てで壁は十六―二十四面体、屋根付の四角い舞台を取り囲むように敷席が三層に重なり、屋根なしの平土間が立見席という構造だった。ほぼ例外なく、木造で茅葺であったため火災に弱く、一六一三年には全焼という悲しい被害に見舞われる。それは、引退間近のシェイクスピアが綴った史劇『ヘンリー八世』の上演中に起こり、舞台装置として使用した大砲の弾の火が茅葺屋根に燃え移ってしまったことが原因だった。焼死者はたった一人、飲んでいたエールに引火したためといわれているが、それ以外の三千人ほどの観客は、無事脱出することができ、翌年六月、この火災の経験から瓦屋根を配した二代目グローブ座が同じ場所に建設されたが、一六四二年に清教徒革命が起きて、劇場も同様、閉鎖に追いやられた。

閉鎖の理由は「演劇は犯罪の温床である」とか「男性が女装して女役を演じることは



ロンドン大火以来初の茅葺屋根となった新グローブ座
Rethatching work at Shakespeare's Globe
Pawel Libera (2008)

ジャーニーのクラシファイド・アドなら
お申込みからお支払いまで **オンラインでラクラク**

掲載料はその場で自動計算

通常締切に間に合わなかった方のために、Express, Super Express (追加料金がかかります)もご用意しています。詳細・お申込みはこちらをご覧ください。
www.japanjournals.com

ご利用頂けるカード
Switch / Maestro / Solo Delta / Master / Visa / JCB American Express

Japan Journals Ltd
Journey Classified Dept.

英国が生んだ最も偉大な劇作家、ウィリアム・シェイクスピア(一五六四年―一六一六年)。ストラットフォード・アポン・エイヴォン出身の彼が、二十代前半で俳優を志しロンドンに赴いた頃、ロンドンには演劇を目的に建てられた「劇場」は三カ所しかなかった。英国最初の劇場が設立されたのは一五七六年、それ以前は旅籠や旅館の中庭、大学や教会などが主な上演場所であった。もともと演劇の娯楽性はキリスト教においては悪とみなされ、中世では宗教劇という形でのみ教会で行われるのが常だった。演劇の世界が当初は女人禁制で、十七世紀半ばまで女優という職業が存在せず、女優は男性が演じていたのも、そういった流れを汲んでいたからだ。

ちょうどエリザベス一世の治世下(一五五八―一六〇三年)において劇場の数は倍増するのだが、そのほとんどは「シテイ」と呼ばれた中心部を取り巻くロンドン・ウォール外に建てられた。というのも、ロンドン市当局はシテイ内での上演を禁止し、演劇を撤廃しようとしていたからである。中世以来の宗教的背景から、世俗的なテーマを扱う演劇は風紀を乱すものとみなされ、市壁外で催されていた熊いじめや闘鶏、博打などの低俗で教養のない娯楽と同等に扱われていた。また、当時の興行は真昼間に行われていたため、労働者の手を休めてしまうこの娯楽は市当局に忌み嫌われていたのである。

しかし、エリザベス一世がこよなく演劇を愛好していたおかげで、枢密院が演劇および俳優たちを保護。女王のお眼鏡にかなうプロを育てるという名目で、市当局の統制権の及ばぬ範囲で積極的演劇活動を支援していくことになる。

英国最初の劇場となったのは「シアター座(The Theatre)」で、一五七六年に当時の有力劇団の座長であったジェームズ・パーベツによって設立された。市壁外の北側、ショーディッチ地区の賑やかな通りに面しており、翌年にはその至近距離に「カーテン座 The Curtain」が建設された。その後、テムズ河南岸のサザーク地区に「ロース座 The Rose」(一五八七年)、「スワン座 The Swan」(一五九五年)、「グローブ座 The Globe」(一五九九年)が、クラークンウェル地区に「フォーチュン座 The Fortune」(一六〇〇年)、レッドブル座 The Red Bull」(一六〇四年)が続々と誕生。この相次ぐ公設劇場の設立が火付け役となって、英国演劇は黄金期を迎え、シェイクスピアも時代の波に乗った俳優、劇作家、詩人として成功を収めていくのである。この時期、ロンドンの人口は急激に増加し、二十万人近くにも膨れ上がっていた。そして一六一〇年まで

女王の庇護のもとに花開いた英国演劇



Serena Evans (Mistress Page) and Sara Woodward (Mistress Ford) in The Merry Wives of Windsor at Shakespeare's Globe (2008) John Trumper

を設立し、文字通り息絶えるまで、その実現のために尽力するのだ。その実現のために尽力するのだ。その実現のために尽力するのだ。

ワナメーカーの執念



スワン座の張り出し舞台で行なわれている公演の様子を描いた1596年のスケッチ。

など頼りに基本構造が決定されていた。考古学的調査に基づき研究や建築規定への適合など、あらゆる角度からの確認作業が必要となった。



Love's Labour's Lost by William Shakespeare John Haynes

元々のグローブ座は、現在のサザーク・ブリッジ・ロード Southwark Bridge Road の東側にあったことがわかったが、アンカー・テラス Anchor Terrace という重要文化財建築物に指定されたビル真下にあたるため、発掘調査は許されなかった。

こうして三百五十年以上もの年月を経て、グローブ座は蘇ったのである。完成をワナメーカーが見届けたら、少年時代から憧れつづけてきたグローブ座が蘇り、半永久的に世界中の人々に愛されていくことが彼自身の何よりの願いであったであろう。

ピアの『ヘンリー五世』は、エリザベス朝時代そのままに行われた。消防法の規制により、収容人数を当時の二分の千五百人とし、劇場サイズも半分の一程度でこぢんまりとしているが、マイクを使わず、音楽も生演奏、照明、暖房器具を使わない形式も当時のままだ。



サム・ワナメーカー (1919 - 1993) 米国シカゴ出身の俳優、映画・舞台監督。東欧ユダヤ系移民の両親を持つ。1943～46年は米陸軍に所属。52年にロンドンでデビューし、57年にはリパブルのニュー・シェイクスピア・シアターで監督を務める。74年『シェイクスピア誕生祭』を指揮。出演作に映画『らせん階段』(1974年)、『赤ちゃんはトップレディがお好き』(1987年)、監督作にテレビシリーズ『刑事コロンボ』(1977・89年) などがある。



ゾーイ・ワナメーカー公式ウェブページより

理不尽な圧力と戦うことも考えたが、熟考の末、彼は米国に戻らず英国で俳優としてのキャリアを磨くことを決意する。BBCの人気ファミリー・コメディ『マイ・ファミリー My Family』や映画『ハリ・ポッターと賢者の石 Harry Potter and the Sorcerer's Stone』のフーチ先生として知られる女優、ゾーイ・ワナメーカーは彼の三人娘のひとり、三歳のときに英国に連れられてきた。有名な家系を紐解く番組『Who Do You Think You Are?』(BBC2・09年三月放送分)の中で彼女は、父親がいかに投獄の危険にさらされており、英国に留まらざるを得なかったかを伝えている。

一九三四年に行われたシカゴ万博に、グローブ座を半分の大きさに縮小し再現した小型レプリカ劇場が展示された。ここで上演された数篇の短縮版シェイクスピア劇に魅了されたひとりの少年がいた。当時十五歳だったその少年は、すぐさまこの劇団のオーディションを受け、巡演に参加したという。

五一年、映画撮影のために再び英国を訪れていた彼は、当時米国で吹き荒れていたマッカーシズム(*)により、自分自身が赤狩りの対象となり、ハリウッド・ブラックリスト(※2)に載ってしまったことを知る。というのも彼は、第二次世界大戦中に演じた作品の影響で共産主義に感銘を受け、三、四年ほどの短期間、共産党入党していたことがあったからだ。米国に戻って、



グローブ座の塙に掲げられたサム・ワナメーカーのブルー・プラーク。

りについては割愛するが、グローブ座復活に以上は、三百五十年以上の年月を要した。それは、あらゆる人物の出現を待たねばならなかった。

アメリカから渡った夢



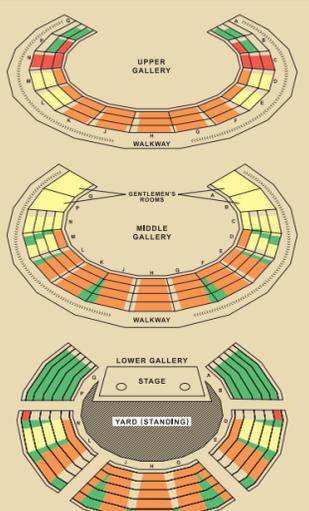
その四年後の七年六月十七日、新グローブ座はオープンした。柿落とし公演となったシェイクスピアの『ヘンリー五世』が上演された。

その四年後の七年六月十七日、新グローブ座はオープンした。柿落とし公演となったシェイクスピアの『ヘンリー五世』が上演された。

女王も我慢できなかった奥さ? ペニー・スティンカー
観客を貴族のみとする他のヨーロッパの演劇と違い、エリザベス朝の演劇は大衆のものとしてスタートした。寒い時期には私設会場で貴族のみを対象とする上演も行われたが、一般的に野外劇場では、貴族も庶民もともに観賞した。舞台を取り囲む三方のボックス席には貴族階級が座り、最下層の市民は平土間の立見席を占めた。当時、この立見席の価格は1ペニー(当時の通貨でコーヒーとパンが買えるくらいの金額)で、ここで観賞する人々のことを「グラウンドリングス groundlings」(水底にすむ魚の意から転じて土間客の意)、あるいは「ペニー・スティンカー Penny Stinker」と呼んだ。彼らは体臭を消すためや風邪などの病気を防ぐために生ニンニクをかじる風習があり、その匂いが平土間に充満していたためという。野次を飛ばしたり、食べ物や投げつけたりすることは普通で、観客参加型の活き活きとした場だったことが伺える。

シネマ・インフォメーション 二〇〇九年五月一日現在

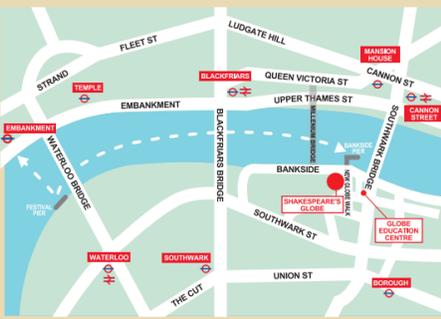
Shakespeare's Globe
21 New Globe Walk, Bankside, London SE1 9DT
最寄駅 Mansion House, Cannon Street, London Bridge, Southwark, St Paul's (Blackfriars は 2011 年まで閉鎖のため要注意)
アクセス情報ライン 020 7902 1409
ボックスオフィス 020 7401 9919
24 時間対応ライン 020 7087 7398
Lower Gallery £15, £20, £27, £33 の4種類
Middle Gallery £15, £27, £33 の3種類
Upper Gallery £15, £20, £27, £33 の4種類
Yard (700人収容可) 一律£5



Exhibition and Globe Theatre Tour
所要時間 40分 英語ガイド付(日本語の解説プリントあり)
ツアー内容 グローブ座の歴史や当時の観劇の様態についての解説を聞きながら、実際に観客席に座ったり(右頁①)、平土間の立見席で舞台上に近寄りたりすることができる。
大人 £9.50
シニア(60歳以上) £8
学生(ID必要) £8
子供(5-15歳) £6



Exhibition and Rose Theatre Tour
グローブ座でマチネが行われている日は、代わりに、バンクサイド初の公衆劇場となった「ローズ座」の跡地を見学するツアーが組まれている。この跡地は1989年に発掘されたもので、考古学的見地から多くの発見があり、グローブ座再建にも大きく役立った。
大人 £6.50
シニア(60歳以上) £6
学生(ID必要) £6
子供(5-15歳) £4
Museum Shop
シェイクスピア関連本をはじめ、グローブ座グッズの数々が売られている(同②)。
www.globe-shop.com



Swan at the Globe スワン・アット・ザ・グローブ
Brasserie
モダン・ブリティッシュを食せるグローブ座付属のレストラン。河沿いの通りに面し、眺めも良い。デザートにも使えるようなスマートな店。アラカルト・メニューはスターターが£5.50~£7.50、メインは£14~£18、サイドディッシュは£3~£3.50、デザートは一律£5.50。この他、12:00~14:30、18:00~19:00にはシェフがセレクトしたセットメニューがあり、2コース£15.95、3コース£17.95とリーズナブル。
毎日 11am-1am (ラストオーダー 12:30am)
Bar
ブラッセリーの階に位置し、ブラッセリーほどかしまっておらず、カジュアルだが洗練された雰囲気。ビーフ&ベジタブルパイ(£8)やブラウマンズ・ランチ(£8.50)、フルーツヨーグルト&ショートブレッド(£3.50)など、英国色豊かなラインナップ。
毎日 11am-1am (ラストオーダー 12:30am)
Coffee Cart
サンドイッチや菓子パン、マフィン、ケーキ、スナックなどの軽食、コーヒー、紅茶などのホットドリンク類が買える。
毎日 9am-5pm



パイは素朴な味



見晴らしの良いブラッセリー